

令和5年度
技術・家庭教育研究委員会
研究局資料

目次

1	令和5年度 技術・家庭科 夏季実践研究・授業部会の反省	P 1～3
2	技・家実践集録(第61号)の作成について	P 4～6
3	技術・家庭科実践集録(第61号)執筆者一覧	P 7
4	愛媛県技術・家庭科委員会 Web ページの活用について	P 8・9
5	技術・家庭科学習指導案(令和4年1月5日版)	P 10～15
6	研究の手引き	P 16～17

愛媛県教育研究協議会
技術・家庭委員会 中学校 研究局

令和5年12月27日(水)

令和5年度 技術・家庭科 夏季実技研修会の反省

昨年度中・四国大会を終え、今年度は、従来の実技研修会として、実技を伴う研修や情報交換の場とした。

1 令和5年度 各分野各管区実技研 参加者数 ※ () の数字は免外教員の数

管区		東予東	東予西	中予	南予	合計
技術分野	計	8(0)	16(0)	24(0)	14(1)	62(1)
	増減	±0	+7	-2	+2	+7
家庭分野	計	10(1)	17(1)	24(1)	11(0)	62(3)
	増減	-1	+5	-1	-5	-2

2 各分野実技研参加者数の推移

管区	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
中四国大会担当	愛媛	岡山	島根	徳島	鳥取	高知	広島	香川	山口	愛媛全
技術分野	104	62	62	58	56	64	40	67	85	94
家庭分野	102	80	77	95	73	80	81	73	87	88
合計	206	142	139	153	129	144	124	140	172	182

管区	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
中四国大会担当	岡山家A	島根技A	徳島家B	鳥取技B	高知家C	広島技C	香川家D	山口技D	広島家B1	愛媛全
技術分野	86	55	57	50	55	56	64	82	79	125
家庭分野	80	63	71	73	65	64	87	71	60	96
合計	166	128	128	123	120	120	151	153	139	221

管区	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
中四国大会担当	岡山技A	島根家B1	徳島技C	鳥取家B2	高知技B	広島家C	香川技D	山口家A	愛媛全
技術分野	55	62							
家庭分野	64	62							
合計	119	124							

3 実施報告

(1) 技術分野

	東予東	東予西	中予	南予
活動内容	①消失模型型鋳造によるネームプレート作製 ②サイクロン式卓上クリーナーの製作 ③エコラン紹介	①. 3DCAD (TINKERCAD) の使用方法の説明を聞きながら、本立ての製図を行った。その後、3DCAD のデータを STL 形式で保存し、スライスソフトウェアで印刷した。 ②. 愛媛大学の西大義浩教授より	・内容C (エネルギー変換の技術) における、設計の内容の授業づくり ・特にHブリッジ回路を使用したモータ制御の実習は、どのように回路を設計すればよいか、先生方も頭を悩ませながら実習に取り組み、生徒に行わせる実習の感覚をつかむことができた。	今後の確認について 双方向チャット作成アプリチャットラン
日程について	閉庁日直前であったが、免許を所持している先生が多く参加してもらえた。	県や四国総体、今治市と西条市の研修会の日程、愛媛大学の先生方の都合等を考慮して日程を決定した。しかし、他の研修会と重なる先生方もおり、全員が参加できる日程調整が難しかった。	第2回松山市主任会の後のため、市内の参加者が多い。講師の先生方の説明を聞き、教材の製作や使用に充てられる時間も十分にあり、余裕を持って研修が行えた。今後も同様の日程で行いたい。	・アンケートから良かったと答えていただいた。
会場について	集まりやすく、作業しやすい環境であった。	今年度は、今治市立北郷中学校で開催したため、西条管内の先生にとっては少し遠かったかもしれない。できれば、今治市と西条市の中間付近が良い。	主任会と同じ学校で開催、参加される先生方の移動や準備をスムーズに行うことができた。内容Cの教材製作、工具が必要になったが、会場前に事前にお願していた。来年度も主任会と同会場で行いたい。	・アンケートから良かったと答えていただいた。
講師について	多くの資料や材料を準備していただき、専門性の高い指導と助言をいただいた。	愛媛大学の先生方に御協力をいただき、授業における ICT 活用について御指導をいただいた。	愛媛大学より3名の先生方に研修をしていただいたが、研修内容や進め方等について念入りにご準備いただき、実りある研修となった。今後も今回お願いした講師の方はもちろん、専門学校や高校の先生、教材会社の方など、研修内容に合う方に幅広く依頼することが大切。	・アンケートから良かったと答えていただいた。

実技研修会を終えて	<p>①・普段の授業では、教科書での説明が主となる内容であるが、実技の準備方法ややり方が分かった。 ・金属加工を中学生にさせるのは、安全面に不安がある。</p> <p>②・理科との教科横断ができる。 ・プレートを3Dプリンターで作るのは慣れに時間がかかりそう。</p> <p>③・ロボコン以外に中学生が参加できる大会があることを知れた。 ・実施するには、専門性が必要。</p>	<p>実習等で生徒が説明動画を見ながら活動ができるように、簡単な動画作成の方法について講義をいただいた。</p> <p>実習では、を iPad の「キーノート」を使って、センサーの使い方の簡単な動画制作をした。</p>	<p>多くの教員が課題としていたところであったため、今回のトランジスタを用いた電気回路の設計の実習は大変参考になった。</p> <p>・今回使用した電界効果トランジスタ、ブレッドボードなど、他の回路でも活用できるパーツを紹介いただいたことも今後役に立つものとなった。</p>	<p>・後期からの授業に向けて、OPPシートや関連表、使用するワークシートについて確認する。</p> <p>・3月に修正した原稿の確認作業をする。</p> <p>・4月に研修会を開催し、原稿を確認する。</p> <p>・8月の実技研で原稿や発表について確認する。</p>
来年度への要望	<p>今年度は、免許外の先生の参加者がいなかった。来年は、免許外の先生も参加できるように、日程調整と研修内容について考えていきたい。</p>	<p>今年度は、生徒指導主事の研修会と重なっていたため、参加できなかった先生方もいた。また、免許外の先生の参加者もおらず、来年は、免許外の先生方も含めたくさんの方に参加いただけるように、日程調整をしっかりとするとともに、参加を呼び掛けていきたい。生徒作品コンテストに出品する生徒作品が集まらなかった。来年度は、コンテストに向けて作品を準備できるように呼び掛ける必要がある。</p>	<p>・フォームズでの回答・集計によりスムーズに審査を行うことができた。 ・応募作品が少ないのが課題。この日程だと、まだ完成していない学校も多いのが現状。過年度の作品でも応募は可能なため、次年度以降も呼び掛けていきたい。</p> <p>今回は内容C(エネルギー変換の技術)における、設計内容の授業提案及び教材紹介(製作)を行ったが、もう一つ要望が多かったのが内容Aにおける設計(CAD等を用いた)であった。次年度の研修内容の候補としたい。</p> <p>また、今回の研修内容を考える際に多かった意見として、「目新しいもの、画期的なものも良いが、費用をかけずにどの学校でも容易に実践でき、学習指導要領の内容に合った題材となるもの」というものであった。来年度に活かしていきたい。</p>	<p>・作品コンクールの応募作品が少なかった。</p> <p>・実践集録の執筆者について 令和6年度 教諭 川野 博章(大洲北中)</p> <p>技・家ノート編集委員 令和6年度 宮本 直暉(野村中) 宮本 彩智(津島中)</p> <p>・HP担当の確認</p> <p>・会場にはネット環境がなくポケットWiFiを活用した。あまり通信環境は良くなかったが、活動は無事に行うことができた。</p> <p>・ドローン研修をしてみたい。</p> <p>・中四発表に向けて、B領域の取組を各校で持ち寄る。</p> <p>・来年度、木嶋先生の発表の練習をやっておいたほうが良いと思います。おそらく、8月の県の技術・家庭研究大会で発表をすることになるはずなので、それに向けた練習ということで、あとは令和8年度の中四国に向けて、生物育成の内容で実技研修ができればいいと思う。</p>

(2) 家庭分野

	東予東	東予西	中予	南予
活動内容	<p>消防防災体験講座 防災センターでの講座は、体験(地震体験、消火体験、煙避難体験、瓦礫救助、指令室の見学と体験)することが多く、大変参考になった。 消費者トラブルについて</p>	<p>①クレジット教育について ②「届けよう、服のチカラ」プロジェクト～ユニクロの取組～</p>	<p>①「鯛づくしの調理実習」 ②創造生徒作品コンテスト生徒作品展出品作品の審査 ③「えひめICT学習支援システム(EILS)」を使用したCBT問題作成の研修</p>	<p>①宇和島水産高校での実習や研究の様子を高校生から学び、調理実習を行った。 ②中四国大会の研究発表についての検討会</p>
日程について	<p>今回のように8月上旬の開催がよいという意見ばかりであった。</p>	<p>○他の研修会や部活動の大会とも重なっていなかったのがよかった。</p>	<p>松山市主任会と同日日程で行いたい。松山市外の先生方の参加を呼びかけたい。今年度は、実技研修の内容が調理実習だったため、開始時間を早めて昼食を兼ねた。</p>	<p>宇和島水産高等学校の先生方に調整していただき、スムーズに研修を進めることができた。</p>
会場について	<p>昼食休憩にゆとりがあってよかったという意見もあり、日程は適切であった。</p>	<p>○エアコンがあり、涼しくてよかった。</p>	<p>松山主任会と同会場。駐車スペース、移動の利便性、調理室の使いやすさ考慮。技術と別会場のため、神野校長先生に代わって副委員長の山本校長先生に来ていただいた。</p>	<p>県大会や様々な研修会が行われる時期なので、日程が重なり参加できない方もあった。</p>
講師について	<p>午前・午後と会場が異なったので心配したが、近くなので問題なかったという意見や駐車場が広くてよかったという意見が多く安心した。</p>	<p>○東予西地区となると地理的位置を考える必要があるが、管区長の勤務校が都合が良いと思う。</p>	<p>河原調理専門学校から講師をお招きし、調理実習実施。事前に2回も会場校に足を運んで下さり、当日も熱心に講義をしていただいた。</p>	<p>免外の先生方にも参加してもらえそうな日程調整を考える必要がある。</p>
実技研修会を終えて	<p>定期的に研修することで防災の意識がさらに高まると思った。 消費者トラブルについては、マッチングアプリやスミッシングなどの新しい内容もあり、参考になった。 実践収録について 執筆者の構想を聞いてから、各校の取組について紹介し合った。今後、どの学校でも参考になるような話を聞くことができ、有意義な時間になった。 HPの作成分担 四国中央市と新居浜市に分かれて分担することができた。 創造生徒作品コンテスト 工夫した作品が多く、時間をかけて丁寧に作成してよかった。</p>	<p>①自分自身が理解できていなかったり、疑問を持ったまま教えていたりしていた内容が分かり、良い勉強の機会となった。○教科書だけでは、消費者教育はすぐに情報が古くなるので、常に新しい情報を得ていく必要がある。○専門知識を備えた方の生の声が聞けたことで、分かりやすく、気持ちが伝わってきた。 ●2時間の講義だったので、途中で休憩があればよかった。 ②○一つの企業としての取組かと思っていたが、企業から行政などを巻き込んだプロジェクトだと分かり、学校で取り組めそうな内容。 ○ユニクロの取組を分かりやすく説明してくださり、来年度、この取組をやってみたいと思えた。</p>	<p>①「鯛ご飯」「鯛のおかき揚げ」「鯛の茶碗蒸し」「伊予灘のらぶかん(レアチャーシューキ)」の調理方法やポイントを教えていただき、調理実習を行った。調理後には、近藤一樹先生から「現代の食環境と日本の食文化」や「こどもの脳と食の関係」についての御講義、為になった。 ③余土中向井先生が講師となつて、EILSの研修を行った。EILS体験をした。教員用画面で、採点結果を確認した。研修の中で、予測変換で語句が表れてしまうので、テストで使用する際は、タブレットモードにしないといけないことなど、細かな注意点も教えていただいた。EILSをもっと活用し、業務改善につなげていきたい。</p>	<p>①日頃は目にすることができない高校生の活動の様子や課題研究の取組を見せていただいた。 将来につながる課題研究や企業等とコラボしての商品開発など、実践的な活動をされていて、意欲的に活動している姿に生徒の成長を感じた。海外進出を目指す宇和島水産高等学校の取組に未来を感じた。魚嫌いをなくすメニューとしてフィッシュ&チップスを作った。鯛のさばき方を高校生から教えてもらったので、上手くできた。 商品開発途中のメニューの試食もさせていただき、意見交換することができた。商品開発の苦労や工夫することの楽しさを感じることができた。</p>
来年度への要望	<p>ありません。</p>	<p>○社会の変化に対応した内容 ○伝統文化の継承に関する内容 ○SDGs、環境、企業、地域などを巻き込みながら持続可能な世界につながる内容 ○衣服に関する内容</p>	<p>○調理実習(多数)・松山の特産物(なすや季節の野菜など)を使った調理実習、郷土料理、親子丼・松山のお魚支援事業のアジを使った調理・蒸し料理・調理実習(30分程度)で作れるもの・アレルギー対応食・レンジ調理 ○効果的なICT機器の活用・EILS、ロイロノート活用 ○情報交換・各校題材の工夫</p>	<p>次の中四国大会(愛媛大会)の南予の研究発表がCの領域なので、領域Cに関する内容が良いのではないかと。 免外の先生方の参加を促すには、授業ですぐ使える話題、資料、作品等があると良いのではないかと。</p>

技・家実践集録(第61号)の作成について

1 内容

- (1) 指定された各分野、各内容の実践報告、題材開発、授業研究などの内容をまとめたものとする。
 - (2) 各市町村で行っている授業研究会等で行った**指導案・ワークシート・学習の流れ**を県下に周知し、授業構成員等の資質向上と情報の共有化を図る。
- ※ 次号の執筆者を各管区で、今年度中に決定。管区の割り振りに合わせて、長期的視野を持って決定をお願いしたい。

2 令和5年度 執筆要領

別紙 技術・家庭科実践集録執筆要領 令和4年1月5日版を参照 (<http://ehime-gika.com/hp/>)

3 執筆分担

各管区より技術・家庭分野について下表により選出する。

管区	西条	今治	松山	八幡浜	宇和島	合計
～R4技術	2名	1名	3名	1名	1名	8名
～R4家庭	2名	1名	3名	1名	1名	8名



管区	東予東部 新居浜 四国中央	東予西部 今治 西条	中予	南予 八幡浜・宇和島	合計
R5～	1名	1名	3名	1名	6名
R5～	1名	1名	3名	1名	6名

※令和5年度の内容に、**技術分野はC、家庭分野はB2を必ず入れる。**

4 編集及び校正の流れ

実践集録としてまとまりのあるものにするために、執筆者、管区長及び本部役員が編集を行う。

第1回校正 11/1(水)ㄨ切	第2回校正 12/27(水)	第3回校正 1/10(水)ㄨ切
執筆者 ⇄ 管区長 ⇒ 研究局	拡大委員会 ⇒ 執筆者	執筆者 ⇒ 研究局
※管区内で校正したものを提出してください。(編集委員会)		
研究局への提出は、メールで行う。		
技術分野 附属中 薬師神吉啓	yakushijin.yoshihiro.yd@ehime-u.ac.jp	
家庭分野 附属中 土手 佳代	dote.kayo.rb@ehime-u.ac.jp	

5 原稿枚数と原稿提出について

- (1) A4版用紙で4枚以内とする。
- (2) 提出方法 **各管区長を通して**、研究局へ提出する。
- (3) 提出期日 第1回校正 令和5年11月1日(水) 執筆者→管区長→研究局
第2回校正後 令和6年1月10日(水) 執筆者→研究局

6 製本部数 350部 (愛教研事務局へ納品 令和6年2月末)

7 予算 154,000円 (消費税込み) ※21支部への発送費用も含む

8 中四国大会発表者の決定

中四国大会発表者は、2年前に決定し、同時期他管区の実践集録の原稿も参考にしながら、愛媛県としての取組を発表する。

例	令和5年度	令和6年度	令和7年度	中四国大会	提案発表
実践集録執筆 (2年前11月)	原稿提出 5月中旬	原稿提出 5月中旬	中四国大会原稿作成 県内原稿ㄨ切 4月下旬	7月下旬 管内でリハーサル	↓ 8月中旬 中四国担当県へ 提出
原稿提出 令和5年11月	↓ 県指導主事助言	↓ 県指導主事助言	↓ 県指導主事助言	↓ 8月上旬 研究部長研修会発表 文科省調査官助言	↓ 10月下旬 中四国大会 提案発表
↓校正 令和6年1月	↓ 愛媛県技術・家庭科 研究大会発表	↓ 愛媛県技術・家庭科 研究大会発表	↓ (中四国担当県へ) 5月中旬	↓ 校正後 県指導主事確認	↓ 提案発表 (2月実践集録掲載)
↓ 実践集録	原稿+プレゼン発表 令和6年8月 県指導主事助言		↓	↓	

9 中四国大会 発表分担と実践集録原稿 分担計画

中四国大会	2021 R 3	2022 R 4	2023 R 5	2024 R 6	2025 R 7	2026 R 8	2027 R 9	2028 R 10	2029 R 11	2030 R 12
全内容	愛媛	岡山	島根	徳島	鳥取	高知	広島	香川	山口	愛媛
技術 A	山口	松山 井ノ口 (川内)	岡山	島根	徳島	鳥取	高知	広島	香川	山口
技術 B	鳥取	高知	広島	香川	山口	東予西 (西条)	岡山	島根	徳島	鳥取
技術 C	広島	香川	山口	南予 木嶋 (城辺)	岡山	島根	徳島	鳥取	高知	広島
技術 D	島根	徳島	鳥取	高知	広島	香川	山口	東予東 原 (新居浜南)	岡山	島根
実践集録	—	60号	61号	62号	63号	64号	65号	66号	67号	—
技術分野 共通	大会 集録	技 C	技 C	技 B	技 B	技 D	技 D	管区別 分担	管区別 分担	大会 集録
東予東 管区長	土居 山下	新居浜西 高橋	四国中央 井上	新居浜	四国中央	新居浜	四国中央	新居浜	四国中央	新居浜
副管区長	—	—	新居浜	四国中央	新居浜	四国中央	新居浜	四国中央	新居浜	四国中央
東予東	技 C 馬越 四国中央	技 C 戸田 (東予西) 技 D 高橋 (新居浜西)	技 C 四国中央 井上 (川之江南)	技 B 新居浜 ()	技 B 四国中央 ()	技 D 新居浜 原 (新居浜南)	技 D 四国中央 ()	中四国大会 D 提案発表 新居浜 原 (新居浜南)	技 A 四国中央 ()	中四国大会 A 提案発表 四国中央 ()
東予西 管区長	日吉 越智	桜井 近藤	今治 近藤 西条	西条	今治	西条	今治	西条	今治	西条
副管区長	—	—	—	今治	西条	今治	西条	今治	西条	今治
東予西	技 A 山本	技 C 木村 (立花)	技 C 西条 飯尾 (小松)	技 B 西条 ()	技 B 今治 ()	中四国大会 B 提案発表 技 B 西条 ()	技 D 今治 ()	技 B 西条 ()	技 B 今治 ()	中四国大会 B 提案発表 西条 ()
松山 管区長	内宮 河合	松前 石本	松山 小田 東温	東温	松山	伊予郡市	松山	東温	松山	伊予郡市
副管区長	—	—	—	松山	伊予郡市	松山	東温	松山	伊予郡市	松山
中予	技 A 渡邊	中四国大会 A 提案発表 井ノ口 (砥部)	技 A 河合 (内宮)	技 A ()	技 A ()	—	技 A ()	技 A 授業者 ()	技 A ()	技 A 授業者 ()
	技 B 小田	技 B 白石 (東)	—	技 B ()	技 B ()	技 B ()	—	技 B 授業者 ()	技 B ()	技 B 授業者 ()
	技 C 窪田	技 C 佐伯 (城西)	技 C 横山 (西)	—	技 C ()	技 C ()	技 C ()	技 C 授業者 ()	技 C ()	技 C 授業者 ()
	技 D 木村	技 D 上岡 (港南)	技 D 小田 (小野)	技 D ()	—	技 D ()	技 D ()	技 D 授業者 ()	技 D ()	技 D 授業者 ()
								技 C 発表者 ()		中四国大会 C 提案発表 ()
南予 管区長	八代 中道	大洲北 坂本	伊方 二宮	宇和島	八幡浜	宇和島	八幡浜	宇和島	八幡浜	宇和島
副管区長	城北 山口	城東 松浦	宇和島	八幡浜	宇和島	八幡浜	宇和島	八幡浜	宇和島	八幡浜
南予	技 D 二宮	技 A 脇本 (保内)	技 A 森岡 (内子)	技 B ()	技 B ()	技 B ()	技 D ()	技 D 発表者 ()	技 D ()	中四国大会 D 提案発表 ()
	技 B 山宮	技 C 木嶋 (城辺)		中四国大会 C 提案発表 木嶋 (城辺)						

中四国大会	2021 R 3	2022 R 4	2023 R 5	2024 R 6	2025 R 7	2026 R 8	2027 R 9	2028 R 10	2029 R 11	2030 R 12
全内容	愛媛	岡山	島根	徳島	鳥取	高知	広島	香川	山口	愛媛
家庭 A	岡山	島根	徳島	鳥取	高知	高知	香川	山口	今治	岡山
家庭 B1	香川	山口	宇和島 大黒	岡山	島根	徳島	鳥取	高知	広島	香川
家庭 B2	高知	広島	香川	山口	四国中央 日野	岡山	島根	徳島	鳥取	高知
家庭 C	徳島	鳥取	高知	広島	香川	山口	八幡浜	岡山	島根	徳島
実践集録	—	60号	61号	62号	63号	64号	65号	66号	67号	—
家庭分野 共通	大会 集録	家 B1	家 B2	家 B2	家 C	家 C	家 A	管区別 分担	管区別 分担	大会 集録
東予東 管区長	川之江北 渡部	新居浜 河村	四国中央 大西	四国中央	新居浜	四国中央	新居浜	四国中央	新居浜	四国中央
副管区 長		新居浜	新居浜 河村	新居浜	四国中央	新居浜	四国中央	新居浜	四国中央	新居浜
東予東	家 C 渡部 西条	家 B2 日野 (土居)	家 B2 発表者 四国中央 日野文香 (土居)	家 B2 新居浜 ()	中四国大会 B2 提案発表 四国中央 日野文香 (土居)	家 C 新居浜 ()	家 A 四国中央 ()	家 A 新居浜 発表者 ()	家 A 四国中央 ()	中四国大会 A 提案発表 新居浜 ()
		家 B1 池本 (新居浜東)								
東予西 管区長	今治西 門岡	北郷 正岡	今治	今治	西条	今治	今治	西条	今治	今治
副管区 長			西条	西条	今治	西条	西条	今治	西条	西条
東予西	家 B1 門田	家 B1 別野 (菊間)	家 B2 門岡 (今治南)	家 B2 村田 (今治西)	家 C ()	家 C ()	家 A 発表者 ()	家 B2 発表者 ()	中四国大会 A 提案発表 ()	中四国大会 B 2 提案発表 ()
松山 管区長	北条南 大藤	港南 兵頭	松山	東温	松山	伊予郡市	松山	東温	松山	伊予郡市
副管区 長			東温	松山	伊予郡市	松山	東温	松山	伊予郡市	松山
中予	家 A 濱本	—	家 A 河本 (三津浜)	—	家 A ()	家 A ()	家 A ()	家 A 授業者 ()	家 A ()	家 A 授業者 ()
	家 B1 竹内	家 B1 柏木 (拓南)	—	家 B1 ()	—	家 B1 ()	家 B1 ()	家 B1 授業者 ()	家 B1 ()	家 B1 授業者 ()
	家 B2 萩野	家 B2 竹内 (南)	家 B2 山口 (北条南)	家 B2 ()	家 B2 ()	—	家 B2 ()	家 B2 授業者 ()	家 B2 ()	家 B2 授業者 ()
	家 C 片岡	家 C 中村 (西)	家 C 向井 (余土)	家 C ()	家 C ()	家 C ()	—	家 C 授業者 ()	家 C ()	家 C 授業者 ()
								家 B1 発表者 ()		中四国大会 B 1 提案発表 ()
南予 管区長	肱川 市川	八代 山村	宇和島	八幡浜	宇和島	八幡浜	宇和島	八幡浜	宇和島	八幡浜
副管区 長	城南 木野下	城東 池田	八幡浜	宇和島	八幡浜	宇和島	八幡浜	宇和島	八幡浜	宇和島
南予	家 A 菊池	家 B1 山村 (八代)	家 B2 萩森 (宇和)	家 B2 山本 (長浜)	家 C 発表者 ()	家 C ()	家 C ()	家 C 発表者 ()	家 C ()	中四国大会 家 C 提案発表 ()
	家 B2 池田	家 B1 木野下 (城南)	中四国大会 B1 提案発表 大黒 (御荘)							

10 技術・家庭科実践集録（第61号）執筆者一覧

【技術分野】

管区	氏名	内容		所属
東予東	井上 雄大	C	持続可能な社会を実現するための発電方法を考えよう。	川之江南中
東予西	飯尾 謙一	C	エネルギー変換の技術を使って生活の問題を解決しよう。	小松 中
中予	河合 康成	A	材料と加工に関する技術を利用して、持続可能な製品の設計をしよう。	内宮 中
	横山 元稀	C	より良い生活や持続可能な社会の実現に向けた電気の利用の仕方を考えよう。	西 中
	小田 祐太郎	D	身近な生活の問題を計測・制御の技術で解決しよう。	小野 中
南予	森岡 寛茂	A	材料と加工の技術で身近な生活の課題を解決しよう。	内子 中

【家庭分野】

管区	氏名	内容		所属
東予東	日野 文香	B 2	家族の安全を考えて、住空間を整えよう	土居 中
東予西	門岡 千草	B 2	よりよい衣服を選び、長く快適に活用するには、どうすればよいだろうか。	今治南 中
中予	河本 優月	A	中学生として家族とどのように関わっていけばよいだろうか。	三津浜 中
	山口 暁美	B 2	安全で快適に住まうためには、どのような工夫をすればよいだろうか。	北条南 中
	向井 喜子	C	持続可能な社会を目指し、自立した消費者としてどのような消費行動をとればよいだろうか。	余土 中
南予	萩森 恵	B 2	安全で快適に住まうためには、どのような工夫をすればよいだろうか。	宇和 中

11 中四国大会発表担当者

年度	氏名	内容		所属
R 4	井ノ口 光彦	技術A	「見方・考え方」を働かせた設計・製作の学習を通して	中予管区 砥部 中
R 5	大黒 智子	家庭B 1	よりよい食生活を創造し社会を支える資質・能力の育成	南予管区 御荘 中
R 6	木嶋 隆之	技術C		南予管区 城辺 中
R 7	日野 文香	家庭B 2		東予西管区 土居 中
R 8	脇本 理広	技術B		南予管区 保内 中
R 9		家庭C		南予管区 中
R 10	原 裕也	技術D		東予東管区新居浜東中
R 11		家庭A		東予西管区 中
R 12	中四国大会 全内容			

※ 来年度の執筆者についてご検討いただき、**2月16日(金)**までに、研究局 薬師神 (yakushi.jin.yoshihiro.yd@ehime-u.ac.jp) まで、教諭氏名・勤務校・連絡先（メールアドレス）をご連絡ください。

技術・家庭科学習指導案（令和4年1月5日版）

3項目の頭をそろえる。
(右インデントで調節可能)
※均等割り付けは使用しない。

実践集録も同じ形式とし、学習指導案に「7 成果と課題」を付け加える。

ここのみ12ポイント。
MSゴシック太字

第3学年技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日時：令和4年10月28日（金）
9：40～10：30
指導者：〇〇市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇
指導学級：3年1組33名

書式：A4版4枚程度、上下左右の余白は2.5cm程度、40字×55行程度を基本とする。（変更可）
字体：本文はMS明朝体。（MSP体は1文字の大きさが異なるので使わない。）
タイトルや頭に番号を持つ行はMSゴシック太字
ポイント：基本は10.5ポイント。表中は9ポイントまで落としても可
その他：かっことその中の数字は半角…例(1)
文章中の1桁の数字は全角、2桁以上は半角…例5月20日
アルファベット2文字以上の語句は半角…例ICT、OPP、B(3)
：学習指導要領の解説に準ずる。…例 ○見だし ×見出し
○見付け ×見つけ
○もつ ×持つ

題材名と題材を貫く課題を併記する。

明朝太字〈〉山括弧、B全角、(3)半角
※ハイフンは付けない。×B-(3)

1 題材名「家族や地域の人々と協力・協働しよう」

〈A(3)ア(1)、イ〉

題材を貫く課題「これからのわたしは家族や地域とどのように関わっていけばよいだろうか。」

記号の○を使う。
×漢数字の○

題材の目標・・・生徒の立場の記述。学習指導要領を参考にする。
技術分野は題材の難易度を示す。

2 題材の目標

- 家庭生活と地域との相互の関わり、高齢者などの地域の人々と協働する必要があること、介護など高齢者との関わり方について理解する。（知識及び技能）
- 高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。（思考力、判断力、表現力等）
- 地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、地域との関わりについて、課題解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

題材の目標・・・生徒の立場の記述。学習指導要領を参考にする。「題材を貫く課題」を解決することで、生徒が身に付ける資質・能力（題材目標・目指す生徒像・求められている結果）を記入する。4・5の評価規準との整合性を図ること。

目標の書き方で。
○（知識及び技能）→目標
×（知識・技能）→これは評価。

・番号、記号は12…、(1)(2)…、①②…、アイ…、(7)(4)…の順とする。
・1①アは全角、(1)(7)は半角文字。
・1①アの次は全角、(1)(7)の次は半角の空白にする。

生徒観は主観ではなく、アンケート調査等に基づいて踏まえ（実施人数、実施時期を入れる）、育みたい資質・能力について述べ、そのための指導の手立てについて記述する。既習事項や他教科との関連について触れ、生徒の習熟の様子について述べるのもよい。指導に関係する生徒の実態。（×明るく元気で・・・）

3 題材設定の理由

(1) 生徒観

授業前の生徒へのアンケート調査結果（3年生215名、5月実施）によると、高齢者と同居している生徒は8%と少なく、核家族世帯が多いことが分かった。また、日常的に家族以外の高齢者と交流しているという生徒は13%と少なく、交流の内容は挨拶を交わす程度が83%、地域の祭りに参加が38%、公民館活動に参加が10%、地域の清掃活動に参加が4%である。高齢者以外の地域の人々との関わりを見てみても、「よく交流している」と答えた生徒は13%と少数であった。さらに、地域に暮らしている一員として、「地域に役立っている」と感じている生徒は7%と低く、現在の中学生は学業や部活動が忙しく、地域の人々との交流が希薄になっていることが伺える。

これまでの学習で生徒は、協力・協働の見方・考え方を働かせながら、自分の成長と家族・家庭生活の関わり、幼児の生活と家族など、中学生として家族とどのように関わっていけばよいかということを中心に学びを進めてきた。幼児との触れ合い体験学習では、準備・計画・実践を通して幼児の心身の特徴や関わり方を学びながら課題解決学習を行うことができた。高齢者など地域の人々とは、職場体験学習や総合的な学習の時間で高齢者施設を訪問したり、「勝山フェスティバル」や地方祭等の公民館行事で関わりを持ったりすることはできている。そこで、さらに高齢者など地域の人々との関

わり方を考え、協力・協働するために自分たちができていることを考えさせていきたい。

この題材でどのような力を生徒に身に付けさせ、なぜその題材を選択したのか、社会情勢や生徒の周囲の環境、置かれている状況等を踏まえて述べる。

題材を貫く課題を設定した理由を入れる。

(2) 題材観

少子高齢化・核家族化が進み、地域の中で人間関係が希薄になっている現代社会において、様々な立場の人々との関わり方を考え、協働する際に配慮すべき内容や注意事項を知り、実際に関わる経験をするための題材を取り上げることは意義深い。このことから、題材を「家族や地域の人々と協力・協働しよう」とし、題材を貫く課題を「これからのわたしは家族や地域とどのように関わっていけばよいらうか。」と設定した。

例 これらのことから、題材を「〇〇」と設定し、題材を貫く課題を「・・・」とした。

本題材では、中学生の自分が地域の一員として、どのようなことに気を付けて行動すれば、高齢者など地域の人々とよりよく関わり、協働することができるかを検討する。既習事項や自分の生活経験と関連付けながら地域の生活の中から問題を見だし、課題を設定し、適切な解決方法を考え、具体的な計画を立て、実践する。実践の評価については地域の方々から直接助言をいただき、よりよい方法を考え、改善を検討する。さらに、この経験を踏まえた上で、協力・協働の視点から家族や地域の人々との関わりについて考えることで、工夫し創造する実践的な態度が育成できると考える。

「本時の指導」の目標ではないので気を付ける。「2 題材の目標」を受ける部分で、ぶれないように特に注意する。「5 題材の指導と評価の計画」との整合性にも気を付ける。

指導観の中に、「～の見方・考え方を働かせて…」入れる。題材を貫く課題にからめて記入するとよい。

(3) 指導観

協力・協働の見方・考え方を働かせ、高齢者など地域の人々と関わる際に具体的にできることを考えさせる。

中学生にとって、高齢者の身体的な特徴や生活上困っていること、不安に思っていることなどを理解することは難しい。そこで、高齢者疑似体験で高齢者の身体的特徴を体感させたり、アンケート結果を提示して高齢者の実際の声を聞かせたりすることで、理解を深めさせる。(生徒を育てる段階)

また、自分の生活が地域との関わりや支えがあったからこそ成り立っていることに気付かせ、地域の一員として今の自分でできることを考え、工夫することで、自分達中学生はこれからの地域社会を支えていく人材であることを意識させたい。(生徒が育つ段階)

題材の終末では、これまでの学習を振り返らせ、パフォーマンス課題を実施する。地域行事である「勝山フェスティバル」に、より多くの人々が参加しやすい行事にするための改善案を考えさせ、地域のために自分ができることを工夫し創造し、実践しようとする態度を養いたい。(生徒が伸びる段階)

本時の指導に当たっては、課題解決に向けての実践報告や話し合いを通して、他者と意見交換しながら互いに実践内容を深め合わせたい。話し合いの際には「高齢者など地域の人々の立場や状況を考えた内容であるか」「中学生と一緒に活動できる内容であるか」という視点を提示し、見方・考え方の意識化を図る。他班からの意見や、ゲストティーチャーからのアドバイスを受けることで改善点を話し合い、ホワイトボードに明記し、思考の可視化を図る。授業後は「いきがい交流センターしみず」を通して地域の人々に発信し、地域との連携を図ることの意義に気付かせ、パフォーマンス課題への意欲化につなげたい。

他の内容との関連があるなら、題材観か指導観に入れておくとよい。例 住生活の学習で防災を学んできたことをその後地域との協働に生かす 等

題材全体を三つの段階に分け、その指導内容についてまとめる。「(生徒が育つ段階)」等を明記する。

最後の段落で本時のみの指導に関することを入れてもよい。書き出しの例 本時の指導に当たっては～

本時の指導の中に、「見方・考え方の意識化」や「思考の可視化」という言葉を使う。

「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所）の巻末資料の「内容のまとめりごとの評価規準（例）」を参考に記入する。（従来のように丸写しではなく、変えて構わない。関連する内容が複数ある場合は合体させる。）

複数ある場合は、箇条書きにする。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解している。	高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見いだして課題を設定し（→①）、解決策を構想し（→②）、実践を評価・改善し（→③）、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている（→④）。	高齢者など地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、地域との関わりについて、課題解決に主体的に取り組んだり（→①）、振り返って改善したりして（→②）、生活を工夫し創造し、実践しようとしている（→③）。

「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所）を参考に作成

技術分野は、指導の流れ順で①～の番号を記入

家庭分野は、①～④の内容別で表す。「知識・技能」は、内容によって数は様々。

「思考・判断・表現」は、①～④の4種類。これが次の「3題材の指導と評価の計画」で具現化されることになる。

「主体的に学習に取り組む態度」は、①～③の3種類。同じく、「5題材の指導と評価の計画」で具現化されることになる。

家庭分野の場合、ねらいの文末はほとんどが「～できる。」とする。詳細は「指導と評価の一体化のための～」を参考にする。

技術分野は、知識・技能 説明できる ～できる
 思考力等 ～できる
 態度 ～しようとしている
 （題材の最後 ～していこうとしている。）

5 題材の指導と評価の計画（全5時間）

○ねらい	・学習活動	時間	評価規準：おおむね満足(評価方法)			段階
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
○家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かる。 ○高齢者など地域の人々と協働する方法について、課題を設定することができる。 ○介護など高齢者との関わり方について理解することができる。	・「いきがい交流センターしみず」でのアンケート調査結果から、地域に即した問題点を挙げ、課題を設定する。 ・体験的な活動を通して、高齢者の身体の特徴や介助の方法についてまとめる。	1	①家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることについて理解している。 ②介護など高齢者との関わり方について理解している。 (ワークシート)	①高齢者など地域の人々との関わりについて問題を見いだして課題を設定している。 (ワークシート)		生徒を育てる
○高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について計画を考え工夫することができる。	・高齢者など地域の人々との関わりについて防災、消費生活、日常生活分野において課題を解決するための計画を立てる。	1	表中の()は半角で。書式は全てMS明朝	②高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について計画を考え、工夫している。 (ワークシート)	①高齢者など地域の人々との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 (行動観察) (ワークシート)	
○高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について計画を実践することができる。	・計画を基に、高齢者の困り事を解決するための実践を行う。 (ポスターや動画、パンフレット等の作成)	1				

本時を太字で囲む。

<p>○高齢者など地域の人々と協働する方法について、実践を評価したり改善したりして、自分にできるよりよい関わり方を考え、論理的に表現することができる。</p>	<p>・実践報告を開き、話し合う。 ・他者の意見や新たな情報により、実践内容の検討をする。 ・地域のために自分ができることを考える。</p>	<p>1 (本時)</p>	<p>(本時) を入れる。</p>	<p>③ 高齢者など地域の人々と関わり協働する方法について、実践を評価したり改善したりしている。 (ワークシート) ④ 課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。 (ワークシート)</p>	<p>② 高齢者など地域の人々との関わりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 (ワークシート) (OPPシート)</p>	<p>生徒が育つ</p>
<p>○幼児から高齢者まで、地域の人々がよりよく生活するために、自分にできることを考え、提案できる。</p>	<p>・パフォーマンス課題に取り組む。</p>	<p>1</p>		<p>①～④ 地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 (パフォーマンス課題)</p>	<p>③ 地域のために自分ができることを考え、工夫し創造し実践しようとしている。 (パフォーマンス課題)</p>	<p>生徒が伸びる</p>

【パフォーマンス評価について】

題材ごとにパフォーマンス評価を一つ以上行う。その際、パフォーマンス課題とその予備的ルーブリックを設定する。

「その他の評価方法」は、5題材の指導と評価の計画で記載しているもの以外で評価するものを記入する。

【パフォーマンス評価について】

パフォーマンス課題	その他の評価方法
<p>地域の代表的な公民館行事の一つである「勝山フェスティバル」を、さらに地域の多くの方に喜んで参加してもらう行事にするために、生徒会に改善案を提出することになりました。幼児から高齢者まで、地域の人々が喜んで「勝山フェスティバル」に参加するための具体的な方法を考えて提案しなさい。その際、「いきがい交流センターしみず」のアンケート調査結果を参考にし、地域の実態に合わせた具体的な提案をすること。</p>	<p>○実践報告 ○ワークシート ○OPPシート</p> <p>この通り記入する。フォントもこの通りに(8pt)</p>

【パフォーマンス課題の*予備的ルーブリック】 ※指導後、実際の生徒の反応や結果に応じて修正する。

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	<p>地域の実態を踏まえ、幼児の特徴や高齢者の生活上の問題点を考慮しながら課題を設定している。 地域の実態を踏まえ、幼児や高齢者の立場で解決方法を具体的に考え、論理的に表現することができる。</p>	<p>地域の人々と協働しようとし、よりよい生活の実現に向けて工夫し創造し実践しようとしている。 地域の一員として自分にできることを具体的に提案し、生活を工夫し創造し実践しようとしている。</p>
B	<p>地域の実情から課題を設定し、解決方法を考え、論理的に表現することができる。</p>	<p>地域の一員として自分にできることを提案し、生活を工夫し創造し実践しようとしている。</p>
C	<p>(支援) アンケート結果や既習事項を振り返らせながら、解決方法を考えるように助言する。</p>	<p>(支援) 既習事項や各自の生活を振り返らせ、解決方法を考えるよう助言する。</p>

A：題材終了までに到達させた理想的な状態

B：題材終了までに到達させたいライン

C：Bに至らない生徒への具体的な支援の方法

この通り記入する。フォントもこの通りに(MS明朝8pt) A、B、Cは全角で。

知識・技能は入れない。パフォーマンス課題ではこれまでに身に付けてきた資質・能力をどう活用しているかをみるため、思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む態度を評価する。

パフォーマンス課題の設定とルーブリックの作成

- ① 題材の途中、または最後に、パフォーマンス課題を設定する。
 - ② 「見方・考え方」は「題材を貫く課題」に対応している。パフォーマンス課題で「見方・考え方」を育てたり、生徒の変容を見取ったりする。→資質・能力を見取る。
 - ③ パフォーマンス課題の*予備的ルーブリックを作成し、生徒の学習改善と教師の指導改善につなげる。
- ※「予備的」というのは、指導後に実際の生徒の反応や結果（レポートの内容等）に応じて修正するため、「予備的」という言葉を使っている。ルーブリックに具体的すぎる内容や数値的な内容は書かない。（×10 品目以上の食品を盛りつけた献立を考えている）

6 本時の指導（4／5時間目）

時数をこの通りに入れる。

学習課題は疑問形にする。その解がねらいの達成となるはずである。

(1) 学習課題

地域の一員として、高齢者など地域の人々のためにできることは何だろうか。

(2) 目標

- 高齢者など地域の人々と協働する方法について、実践を評価したり改善したりして、自分にできるよりよい関わり方を考え、論理的に表現することができる。

(3) 準備物

ワークシート、ホワイトボード、大型テレビ、パソコン、OPPシート、各グループの作成資料

5のねらいをそのまま入れる。

(ねらいを作成するときに評価標準との整合性に気を付けておく。目標なので、文末は評価と同じではない。)
(×～している)

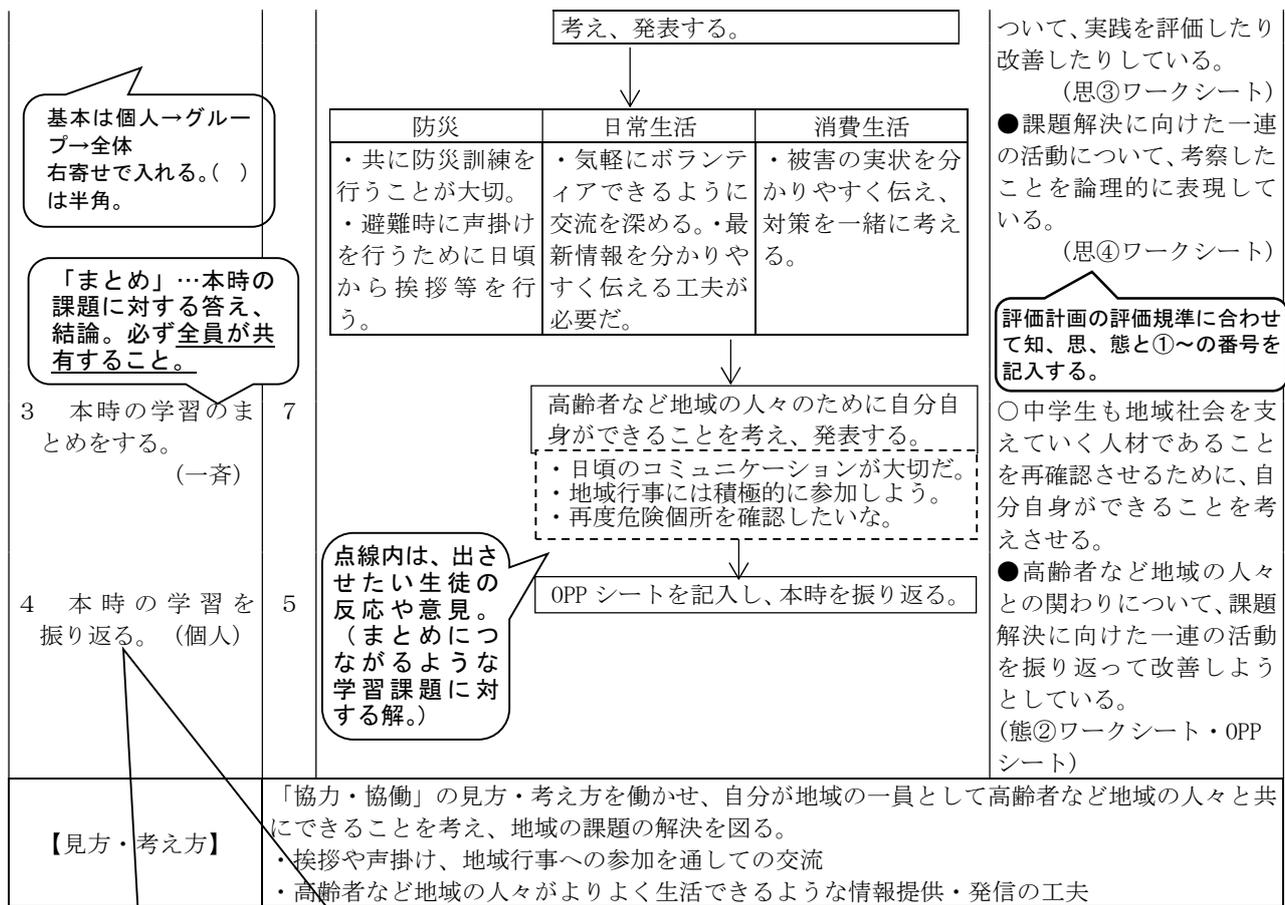
「分かる」…学習課題が分かる、課題の解決の方法が分かる、作業の手順が分かる 等
 「考える」…問題を見いだす、課題の内容について考える、課題の解決の方法を考える、今後どうすればよいのか考える 等
 「実行する（×実践する）」…考えたことを発表する、グループ活動等をする、製作を行う、ワークシートに記入したり、OPPシートに記入したりする 等
 ○学習課題を二重線で囲む。

★新設★

- 「本時の【見方・考え方】」を具現化したものを、文章表記する。
- フィードバックは点線の矢印で記入する。（なくてもかまいません。）

(4) 展開

学習活動(形態)	時間	学習の流れ			○指導の工夫 ●評価(方法)					
		分かる	考える	実行する						
1 前時の学習を振り返り、学習課題と学習方法を確認する。 (一斉)	3	前時を振り返る。	テキストボックスがあとで移動しやすい。	学習課題は二重線で囲む	○前時までの学習を振り返らせることで、高齢者の身体的特徴や日常生活における問題点を確認させる。					
2 実践報告会を開き、話し合う。 (1) 各班の実践を発表する。 (グループ)	35 (15)	班ごとに発表をする。			○多面的・多角的に考えさせるために相互に質問やアドバイスを多く取り上げる。 ○清水地区の社会福祉団体の方々、県の消費生活アドバイザーをゲストティーチャーに招き、専門家のアドバイスをもらうことで、より具体的かつ有用な実践になるように改善させる。 ●高齢者など地域の人々と関わり協働する方法に					
		<table border="1"> <tr> <th>防災</th> <th>日常生活</th> <th>消費生活</th> </tr> <tr> <td>・危険箇所のマップ作り ・避難経路、避難方法の確認</td> <td>・ゴミ分別やゴミ出しボランティア ・買い物の配達サービスや移動販売の紹介</td> <td>・被害にあわないための情報提供 ・キャッシュレス決済の情報提供</td> </tr> </table>	防災	日常生活		消費生活	・危険箇所のマップ作り ・避難経路、避難方法の確認	・ゴミ分別やゴミ出しボランティア ・買い物の配達サービスや移動販売の紹介	・被害にあわないための情報提供 ・キャッシュレス決済の情報提供	
防災	日常生活	消費生活								
・危険箇所のマップ作り ・避難経路、避難方法の確認	・ゴミ分別やゴミ出しボランティア ・買い物の配達サービスや移動販売の紹介	・被害にあわないための情報提供 ・キャッシュレス決済の情報提供								
(2) 改善点を話し合い、発表する。 (グループ) ↓ (全体)	(20)	ゲストティーチャーの話を聞き、実践を改善する。								
		他班の意見やゲストティーチャーのアドバイスを受けてどう改善するか								



7 成果と課題

☆実践集録のみ☆

①授業を行った後の研究協議等を簡単にまとめたり、生徒の変容等についてまとめたりしてください。

愛媛県の研究に対する成果と課題が必要です。

※全体を5ページ以内にまとめてください。(行数や文字数を変更してもかまいません。)

②写真(写真1～)やワークシート等(図1～)を必ず入れるようにし、**文中にも・・・(写真1)。**と記載する。

③事前アンケートと事後アンケートの結果から変容が見られるようにするとよい。

【注意点】

1 学習形態について

「一斉」…教師が一斉に学習を進めていく場面を指す。学級全体に問いかけたり説明したりする。

「全体」…グループで得た思考や技能を全体の場に持ちだし、グループとグループあるいはグループと個人の間で更に練り合い、確かめ合う場面に使用する。

「個人」…1人で考えたり、作業をしたりする場面に用いる。

※一般的には、「個人→グループ→全体」の流れを基本とし、突然グループ活動が入ることはない。ただし、前時や家庭での課題など、何らかの準備があった場合はかまわない。

2 目標やねらい、評価について

「2題材の目標」→「3(3)指導観」→「5題材の指導と評価の計画」→「6本時の指導(2)目標、(4)展開の評価」が一貫してぶれることなく、順番に進むにつれて具体的になるように考える。

3 表記について

6(4)展開 中の文章は、文には句点「。」を付ける。体言止めのものには付けない。

例「学習活動」など

技術・家庭

(中学校)

I 研究主題

よりよい生活を創造し、社会を支える資質・能力の育成
—「見方・考え方」を働かせた学習活動を通して—

II 研究のねらい

よりよい生活を創造し、社会を支える資質・能力を育てるために、

- 1 基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けさせる。
- 2 自ら問題を見いだして課題を設定し、解決するための力を身に付けさせる。
- 3 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けさせる。

III 研究の視点

本研究では、見方・考え方を働かせながら問題解決ができるような「題材を貫く課題」を題材ごとに設定し、見方・考え方を働かせた問題解決的な学習を繰り返し行うことができるようにする。

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、定着を図るとともに、見方・考え方に気付かせる段階を「生徒を育てる段階」とする。また、生徒自ら問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想

し、実践を評価・改善し、表現するなど、見方・考え方を働かせて課題を解決する力を養う場面を「生徒が育つ段階」とする。さらに、今後の生活や社会において見方・考え方を働かせることができるようにすることを目指す段階を「生徒が伸びる段階」とする。この段階では、生活する上で直面する様々な問題に対して、解決方法を考えたり、自分なりの発想で方法を改良したりして、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育む。この学習サイクルを指導計画に位置付け、各題材で3学年間通して繰り返し行うことで、生徒の成長につなげる。

加えて、学習の成果を適切に評価し、授業の改善や指導の工夫に活用することで、よりよい生活を創造し、社会を支える資質・能力の育成を目指す。

1 指導計画について

効率的に内容、題材を配置するとともに、見方・考え方を働かせた問題解決的な学習を、3学年間を見通して繰り返し行うことができるよう、指導計画に関して以下のような内容に取り組む。

- (1) 「見方・考え方」を働かせながら問題解決ができるような題材を貫く課題の設定
題材ごとに見方・考え方を働かせながら問題解決ができるような「題材を貫く課題」を設定し、課題の解決に向けて生徒の実態に応じた学習活動の工夫・改善を行うことにより、生徒一人一人の資質・能力の育成を図る。
- (2) 指導事項関連表の作成
指導の重複や漏れを防ぎ、問題解決的な学習を充実するとともに、見方・考え方に関連する既習事項を明確にし、より見方・考え方を働かせることができるように指導事項関連表を作成する。
- (3) 3学年間を見通した指導計画の作成
見方・考え方を働かせた問題解決的な学習が系統的に行えるよう、指導事項関連表を参考に、適切な難易度の題材を検討し、3学年間を見通した指導計画を作成する。



2 「見方・考え方」を働かせた学習活動

問題解決的な学習において、見方・考え方を働かせることができるよう、以下について取り組む。

(1) 「見方・考え方」を働かせる三つの段階の設定

見方・考え方を働かせる「題材を貫く課題」の解決を目指して、三つの段階（「生徒を育てる段階」「生徒が育つ段階」「生徒が伸びる段階」）を設定し、段階的に見方・考え方を働かせることができるようにする。

(2) 「見方・考え方」の意識化

学習活動において、見方・考え方を働かせることができるよう、見方・考え方を意識化させる工夫を図る。

(3) 思考を可視化する工夫

思考を可視化し、見方・考え方を働かせやすくするために、思考ツールの活用やワークシートの工夫を行う。

3 身に付けた資質・能力を見取る工夫

見取りが難しい思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度の観点について、生徒が自己の成長を自覚できるようにするとともに、教師が指導の改善に生かすことができるよう、以下のような評価の工夫を行う。

(1) 生徒の変容を見取る評価方法の工夫

グループ活動の中で育成された生徒一人一人の資質・能力を見取るために、ワークシートや学習の振り返りシート（OPPシート）等を活用して評価方法の工夫を行う。

(2) 題材を通して育んできた資質・能力を評価する工夫

学習場面ごとの評価に加えて、題材を通して育んできた資質・能力を見取ることができるよう、各題材で題材を貫く課題に対応させたパフォーマンス課題を設定し、見方・考え方を働かせながら習得した知識や技能を使いこなして課題を解決させる。その際の評価規準やルーブリックについても検討し、「生徒が伸びる段階」で身に付けた資質・能力を適切に評価できるようにする。

4 ICT 端末等の効果的な活用

主体的・対話的で深い学びを実現するために、生徒の思考の過程や結果を可視化したり、大勢の考えを瞬時に共有化したり、情報を収集し編集することを繰り返し行い試行錯誤したりするなどの学習場面において積極的に活用する。

(1) 一連の学習過程の中での効果的な ICT 活用の工夫

生活や社会の中から問題を見いだして課題を解決する活動の中で、課題の設定や解決策の具体化のために ICT を活用して情報を収集・整理したり、実践の結果を分かりやすく編集し、発表したりするなど工夫を行う。

(2) 評価における ICT 活用の工夫

CBT システム (EILS) や、学習支援ソフト (EILS)「ロイロノート・スクール」等) を活用することで、生徒が自らの学習成果を蓄積して評価・改善につなげられるようにする。また、生徒の保存した資料や写真、動画等をもとに評価を行ったり、授業改善に生かしたりするなど、ICT を評価に活用する工夫を行う。

IV 留意事項

~~○ 生徒の実態を把握するためにアンケート調査を県下全域で行う。~~

○ 学習環境の整備・充実に努め、学習効果を高めるとともに、安全や衛生に関する指導の徹底を図る。

2024 年度に開催予定の研究大会

- 第 63 回 全日本中学校技術・家庭科研究大会 (山形大会) 11 月 14 日 (木)～11 月 15 日 (金)
- 第 62 回 中国・四国地区中学校技術・家庭科研究大会 (徳島大会) 11 月 27 日 (水)～29 日 (金)
- 第 11 回 愛媛県技術・家庭科教育研究会 (小・中合同開催) 8 月中旬
- 愛教研夏季実技研修会 夏季休業中 各管区